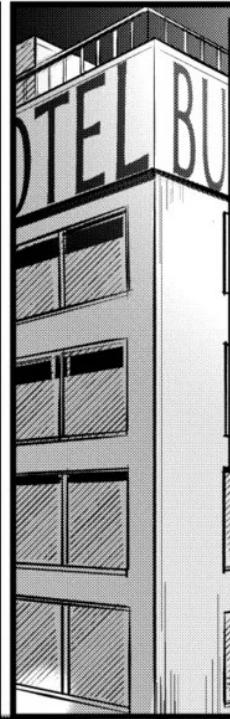


ハロウィンパレードが
あった日の夜、
とあるビジネスホテルにて



んんっ……



今、何時だろ……



んん？

麗乃。バッチリ撮ったよ!



ドキッ



ドキッ

軟体妖怪！ハロウィンパレード！
ホテルで目覚めた麗乃の身体が疼く！



あの中で私、

グウグウ
ぐいん

グウグウ
ぐいん

カク

カク
びる

アダルトグッズを
ふんだんに使って……
オナニーしてたんだよ……っ



みんな気づいて
ないのよね……



また、
濡れてきてる……



あ、まずい



もう、
ないよね……？

こんな
機会、



麗乃はルームキーを
おっぱいとお腹の間に出来た
隙間に押し込み、

廊下へと出た

ドキドキ

パツパツ

廊下はひんやりとした
冷気が漂っていたが

興奮している麗乃には、
ちょうどいい
冷え具合だった

ぺた

ぺた

おととと……
危ない危ない

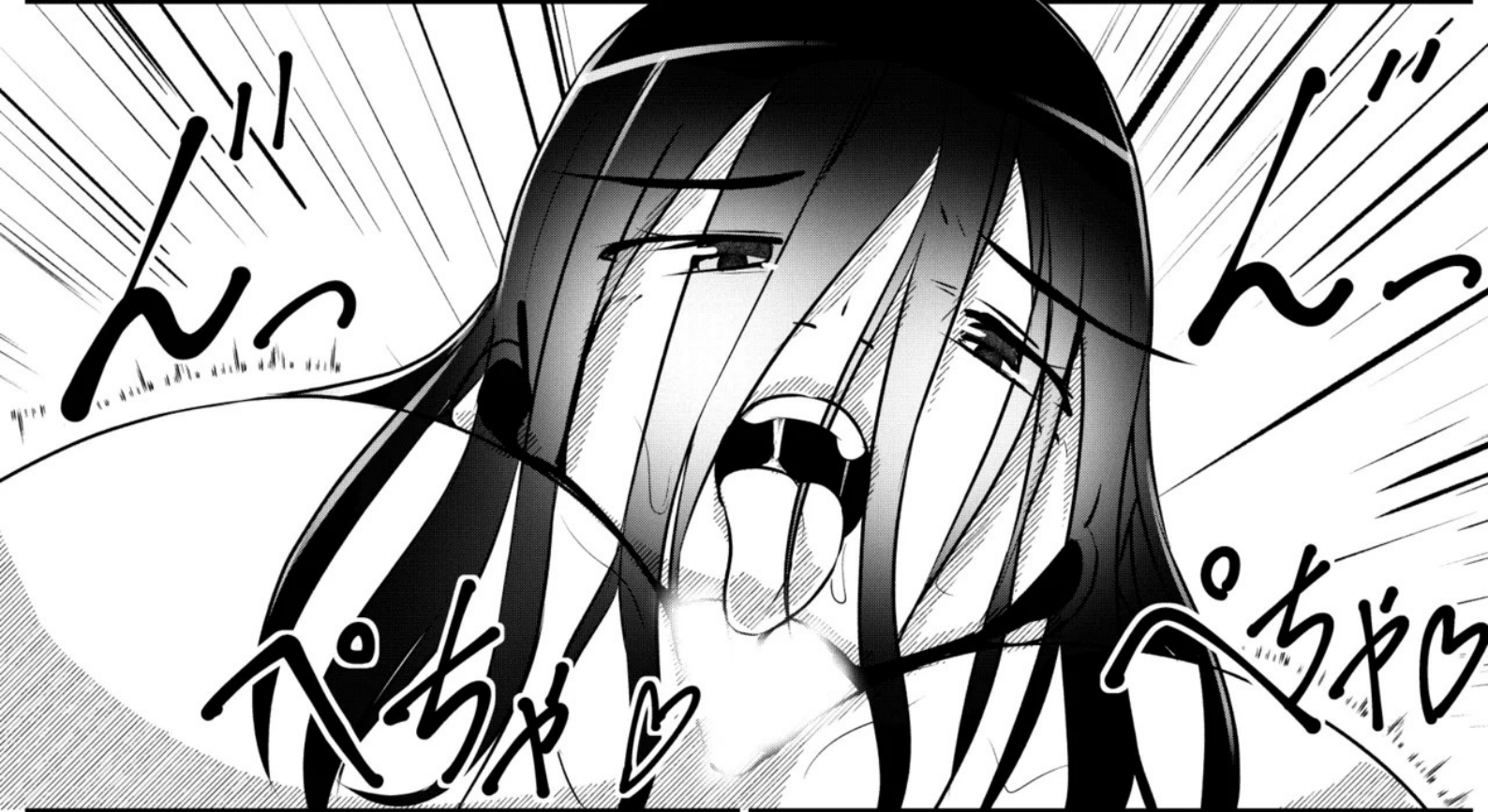
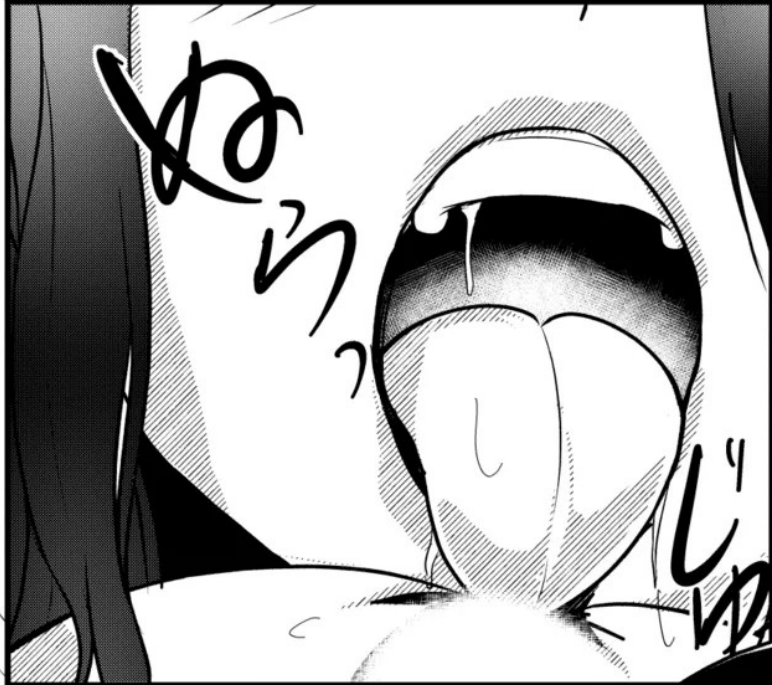
アツアツ

顔出したままだった

もし、誰かが
やって来たら……

あっ!!

!



エレベーター……

2

廊下を歩き回るだけじゃ
つまらないからね……

カキッ



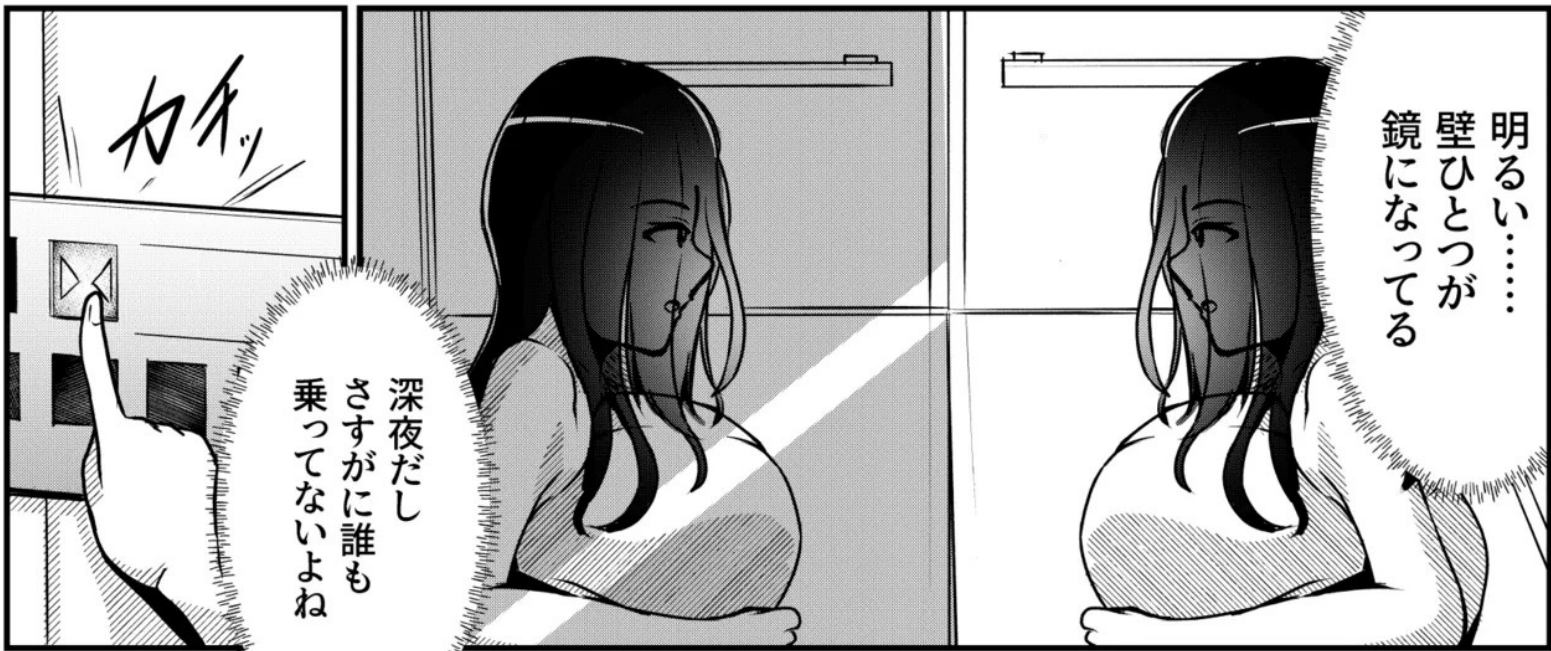
!

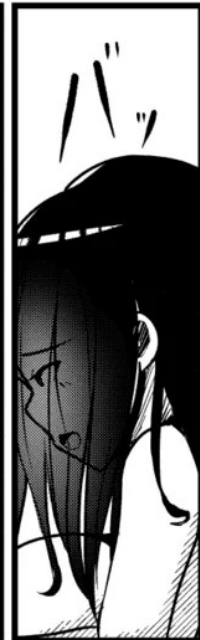


明るい……
壁ひとつが
鏡になってる

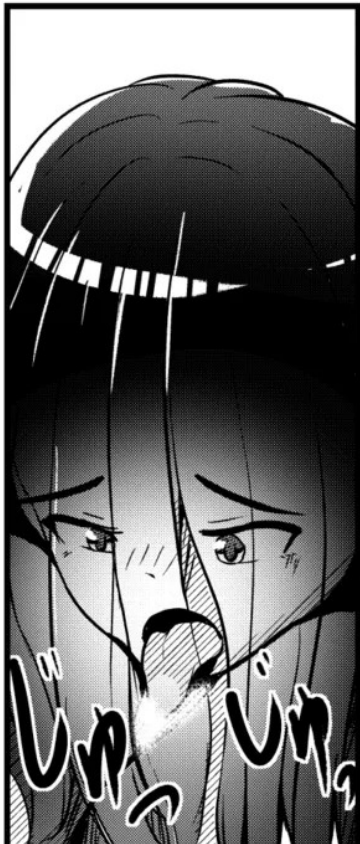
深夜だし
さすがに誰も
乗ってないよね

カキッ





最上階



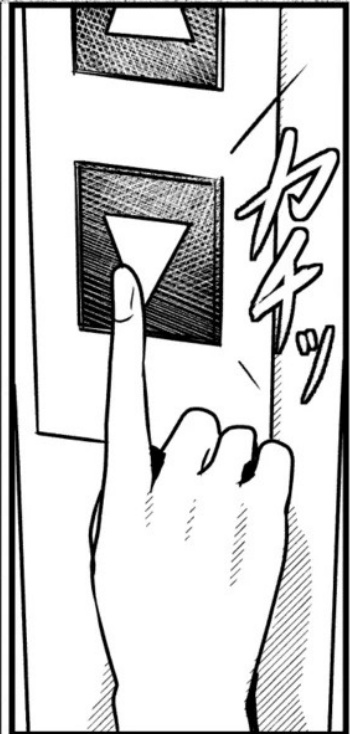
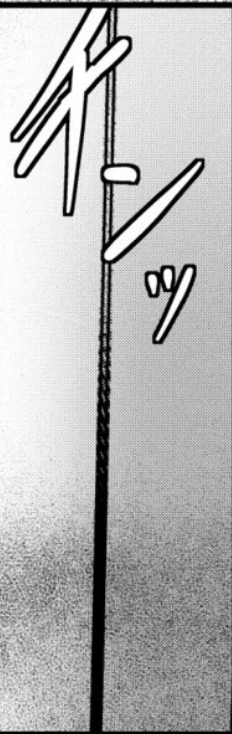
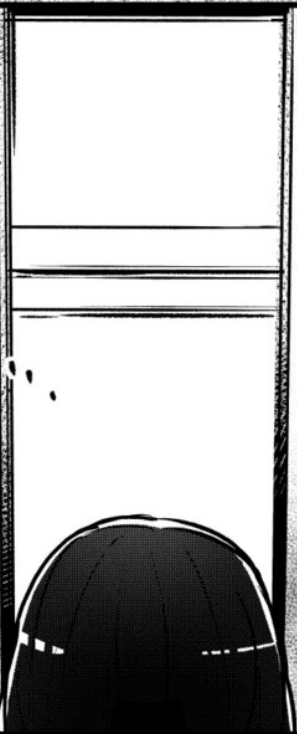
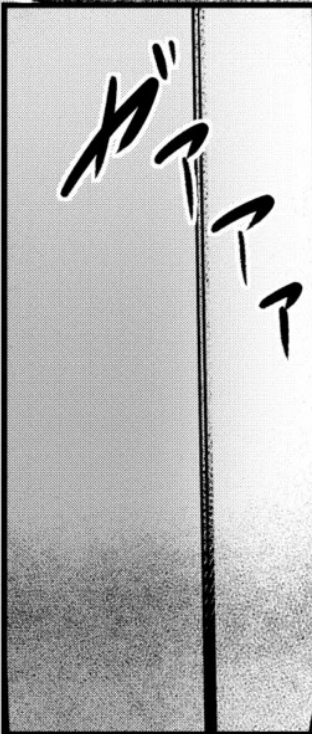
窓……

街が……
見える……



こんな格好で……

出歩いってるなんて……



あ……そうだ、

エレベーターには
鏡があるんだって

露出プレイの気持ち良さに
夢中になっていた麗乃は、
エレベーターのボタンを
押し損じていたことに
気付かなかった

普通に乗るより
ずっと動き出しは
遅かったが、

ぺちや

エレベーターの中には、
深夜帯などには
何も操作しないと、
自動的に一階に降りる
設定になっているものがある

麗乃はおナニーに
夢中になっていて
気付いていなかった

じゅる

じゅる

入口に背を向け、
鏡で自分の姿を
見つめる麗乃

あつ……あつ……
ああつ……！

『ぺたぺたさん』としての
異形の姿に彼女は興奮し、
ますます舌を性器に
這わせてしまう

気持ち、いい……ッ

そうしている間に、
エレベーターは
一階に到着していた

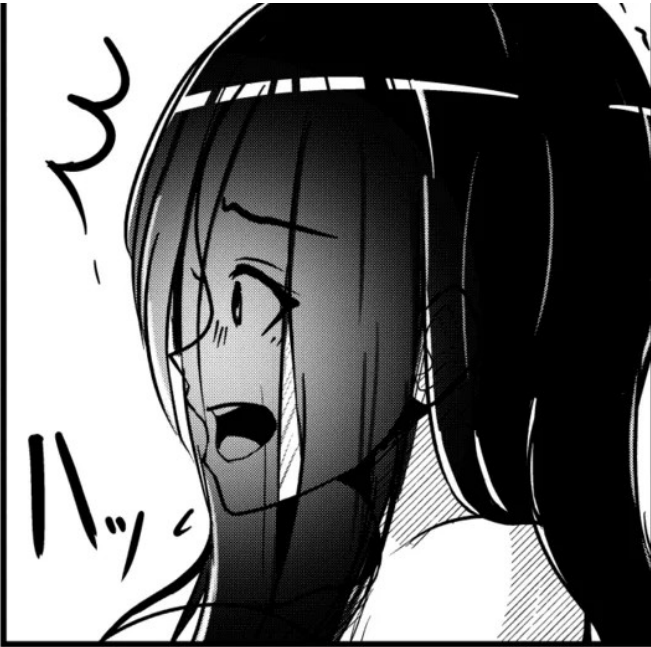
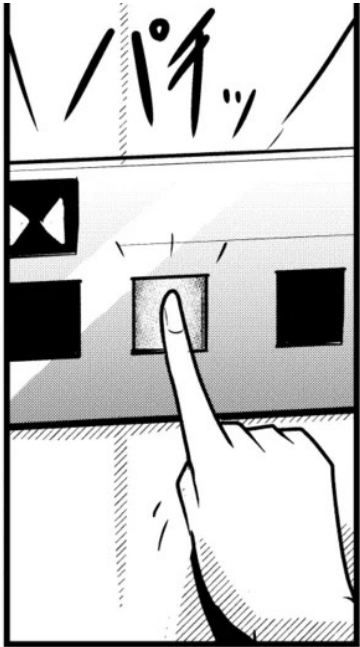
扉は開かなかったため、
麗乃は一階に着いた事に
気付かなかった

エレベーターの中で
ぶるぶると震え、
絶頂寸前まで昂る麗乃

その時、
エレベーターの扉が
開かれた

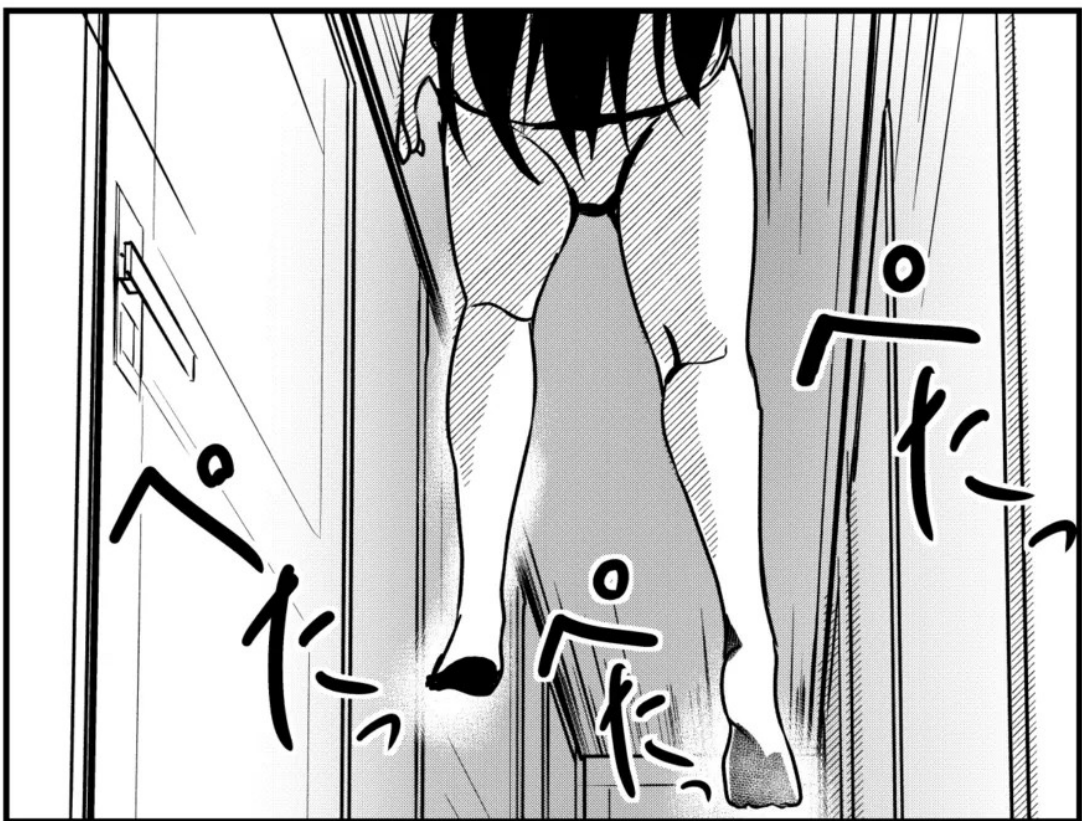
インッ
1

じゅっ



ひんぎゃあああああ!!

お、おたすけええっ!!



その映像は
ハロウィーンパレードの夜の
話だということもあり

幸いだったのは
古いエレベーターだったため、
監視カメラの解像度は
大したことがなく、
ほどよく不気味な映像で、
それがまさか人間の丸まった
姿だとは誰も思わなかった
ことだろう



それから、後日の話
エレベーター内には、
監視カメラがあったため、
一部始終の様子は
全て捉えられていた

『パレードには
本物のぺたぺたさんも
参加していたのだ』と、
まことしやかに
語られるのだった